

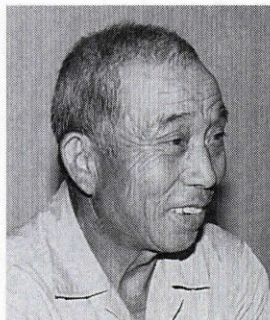
# ワクワク ひるば

## 達者です!

17

### 一杯のご飯、みそ汁、お酒

真木区 上田 勝さん(74歳)



満州で終戦を。捕虜としてロシアへ。その時の行軍「体力がない兵隊は次々と自殺していった。それは本当に辛かった」「ロシアに入った時は死も覚悟しました」と、昔の思い出がよみがえり言葉がとぎれる。

捕虜生活で「ナタとノコギリがあれば大工ができたものですが、空気の水蒸気が凍り、太陽の光で反射して、キラキラ光った。零下の中の仕事。とても寒かった」と語る。

それから、日本に帰る船の中での歓迎は「花があったり、一杯のご飯、みそ汁、お酒があつてとてもおいしかった。今でも忘れられない」と強調。真木に帰ってからは炭焼き

の仕事をする。毎日、大変忙しい日々が続く。そんな折、「主人が盲腸を患う。そして、父が腸捻転になり、女だけで田植えをやったこともありますよ」と奥さんが勝さんを見つめる。

木炭から、タバコ、なすと農業を。今は山の木出しもやっている。「大きい木をいかにして出すかがおもしろい」と手を広げて語る目が輝く。

シシ狩が大好きで、よくグループで狩をする。今までの最高は一頭80kgもあったとか。「矢開き」の儀式や、狩の話になるとなかなか止まらない。「酒は弱い方ではないね」と飲んで酔うことはないね」と豪語。「何でも食べるから健康なのでしょう」と奥さんが、

のためにたくさんのお金も使ってもらい、本当にすいませんでした。

心から感謝しています。それから深川中学校と俵山

中学校との交流会もたいへんうれしかったです。友達にもなれました。次の機会も楽しみにしています。

そのために、私達も一生懸命毎日の練習に励みます。

### 投稿

#### 近松祭に参加して

三原中学校郷土部

前川智子さん

実行委員の皆さん、大変お世話になりました。

雨模様でしたが、私達の公演時には晴れていました。

おかげでたくさんの人達に拍手をもらいました。



野外で緊張のなかにも、よい公演ができました。

あの舞台は自然を利用して作られており、長門市はすごいところだと思います。

本当によいところですね。弁当やおみやげなど、私達

### ⑦ ちよつと

## 小耳にはさんだ...

## 笑顔と会話の

## ボランティア

松野 恭子さん (殿台区)



名前を覚えていただき「待ちよつたよ」と言われたときは、思わず胸がジーンとなりました。

高校入学時には看護婦が将来の夢でしたが、この体験を通して福祉の道に進学をすることになりました。

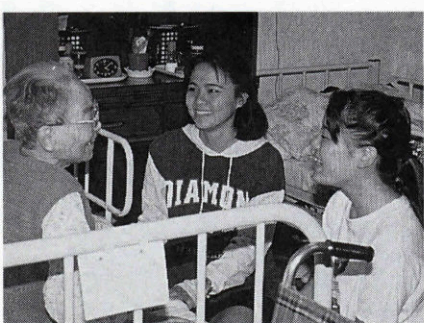
苑生さんにも様々な考えがあるように、接する私達にも一人ひとりにできる何かがあることを学びました。

心の笑顔と会話が私の「ボランティア」です。卒業するまで続けます。

地域や国際社会に対応できる人間形成をめざす、長門高校インターアクトクラブは、その一環として、恵光苑の苑生さんとの心のふれあい活動を続けています。

岡田苑長先生の「頑張っておやりなさい」との暖かい励ましを受け、今年度からクラブ全体での取り組みに発展しました。1日2時間、ふれあいの輪が広がりました。

最初は緊張と同時に何を話せばと不安でしたが、顔を合わせる回数が増えるたびに、自然に会話がはずむようになりました。



耳の不自由な苑生さんとは文通でのやりとりです。